校長室だより(No.2)

令和 4 年 4 月 14 日 丹波市立黒井小学校長 谷口 千尋

丹波市立黒井小学校の本年度の学校経営について説明いたします。中央教育審議会では、「令和の日本型学校教育」として急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力について、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するしたうえで、多様な他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる方向を示しています。これを踏まえた義務教育の在り方について、①教育課程の在り方 ②義務教育9年間を見通した教科担任制の在り方 ③義務教育を全ての児童生徒等に実質的に保障 ④生涯を通じて心身ともに健康な生活を送るための資質・能力を育成 ⑤いじめの重大事態・虐待事案等に適切に対応をあげています。

また、文部科学省は、次世代の学校指導体制の在り方について(最終まとめ)において、現在の学校指導体制について、教科指導、生徒指導、部活動指導等を一体的に行う「日本型学校教育」は、国際的にも高く評価され、大きな成果を収めていること、世界トップレベルの学力を維持する一方、根拠・理由を示して自分の考えを述べること等に課題があることを述べています。今後、更なる対応が必要な課題として ①子供たちに向き合う時間を確保(業務改善)、質の高い授業(授業改善等)、個に応じた重点的な学習指導、これからの時代に必要な資質・能力を保障といった学力の保障に関する事柄 ②特別支援教育の充実、要支援児童へのきめ細かい支援、外国人児童生徒への支援、いじめ・不登校児童への対応、一人ひとりが持つ能力を伸長、安全で安心な学校といった生徒指導面・特別支援教育に関する事柄 ③「地域とともにある学校」への転換、コミュニティ・スクールの充実、学校と地域の連携・協働、 社会総がかりの教育を実現、家庭教育の支援といった家庭・地域との連携に関する事柄の3つを次世代の学校に向けての課題としています。

丹波市の令和4年度教育方針は、「地域に誇りを持ち、自分たちの未来を創る 人づくり」です。一人ひとりが前述した未来の創り手になるように8つの柱を作っています。上記①に関して、「主体的・対話的で深い学び」の充実と学校の働き方改革の推進があげられます。②では、教育支援センター支援体制の充実 ③では、郷土愛をはぐくむ教育施策の展開、コミュニティ・スクールの深化・充実、地域の豊かな教育資源を学校教育にいかす「博学連携」の充実が考えられます。

このことを受けまして、本校の教育目標を「地域に誇りを持ち³、自ら学び¹、たくましく生きる子²の育成」としました。※肩番号が上記(1)2/3)と関連

前回の校長室だよりにも書きましたが、人間関係形成・社会形成能力(多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができること)自己理解・管理能力(自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする)課題対応能力(様々な課題を発見し、適切な計画を立ててその課題を人と協力して解決することができる)キャリアプランニング能力(自らが果たすべき様々な立場や役割を踏まえて人のために行動すること)をとおして育てる児童像として、 [地域に誇りを持つ]人とつながり地域を学ぶ [自ら学ぶ]自ら課題を見つけ、学び続ける [たくましく生きる]自他の命や人権を大切にするを目指していきます。